

平成 30 年度

福井県立病院経営改革プラン
実績評価書

令和元年 10 月

福井県立病院 経営評価委員会

福井県立病院経営評価委員会は、福井県立病院経営改革プラン（以下、「改革プラン」という。）の平成30年度進捗状況について、検証・評価を実施した。

評価に当たっては、改革プランに掲げる重点事項47項目（小項目15、細項目34）および数値目標14項目について、福井県立病院が行った自己評価をもとに4段階評価を行った。

【4段階評価】

評 価	評 価 基 準
S	計画、数値目標を大きく上回った。
A	計画、数値目標をほぼ達成した。
B	計画、数値目標をやや下回った。
C	計画、数値目標を大きく下回った。

<全体評価>

大項目「高水準の急性期医療を担う基幹病院としての役割」について、血管に関わる総合的な治療を行う脳心臓血管センターを整備し、30年4月からハイブリッド手術室の運用を始め、紹介患者数、手術料収入が増加している。こころの医療センターは30年1月に精神科救急・合併症病棟を開設し、30年度の新入院患者は前年度より約9%、入院稼働額は約15%増加しており、県内全域をカバーする基幹病院としての役割を果たしている。陽子線がん治療施設の利用者は、前立腺がん等が保険適用になり、前年度より約39%増加しているが、目標人数に達しておらず、他の医療圏からの一層の集患を図っていただきたい。また、入退院支援部門スタッフや薬剤師等の増員が望まれる。

大項目「収支を改善し単年度収支を黒字化」については、30年4月からDPC特定病院群に指定され、入院単価が増加しており、経常収支比率は102%となっている。今後さらに救急からの入院患者を増やしていただきたい。

大項目「県民に選ばれる病院づくり」については、接遇向上のための研修会の実施や、患者への良質で安全な医療の提供と職員の安全を守るための医療安全水準の向上に積極的に取り組んでいる。今後とも県民に信頼される病院であるよう、しっかり取り組んでいただきたい。

○ 重点事項

改革プラン重点事項			委員会 評価	委員会意見
(大)	(中)	小項目		
1 高水準の急性期医療を担う基幹病院としての役割				
		〔1〕 質の高い医療の提供		
		(1) 基幹病院として取り組むべき医療の充実	A	救急からの入院患者増を図っていただきたい。 分娩件数の増加を図っていただきたい。 精神科急性期医療の強化は地域医療ニーズに合致しており評価できる。 地域医療連携を更に推進してほしい。
		(2) 高度な医療技術の積極的な導入	A	—
		(3) 手厚い医療の提供	A	—
		(4) 医療機器や設備の計画的な導入	A	ハイブリッド手術室でTAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）を実施していただきたい。
		〔2〕 全国トップレベルのがん治療の提供		
		(1) 全国トップレベルのがん治療の提供	B	陽子線治療患者について、他の医療圏からの一層の集患を図っていただきたい。
		〔3〕 人材の育成・確保		
		(1) スタッフの確保・定着促進と資質向上	A	認定看護師、特定行為研修修了者等の更なる育成に努めていただきたい。

2 収支を改善し単年度経常収支を黒字化			
〔1〕収益の確保			
	(1) 新規患者の増加	A	救急からの入院患者を増やしていただきたい
	(2) 診療単価の向上	A	人件費率50%を目指し、診療単価の向上による 医業収益増加を図っていただきたい。 入退院支援加算算定の増加に取り組んでいただき たい。
	(3) データ分析に基づく経営改善	A	DPC機能評価係数Ⅱが高く、評価できる。
	(4) 診療報酬請求業務の水準向上	A	—
	(5) 外部評価の実施	A	—
〔2〕経費の抑制			
	(1) 個別経費の節減	A	機器保守費の削減に努めてほしい。
3 県民に選ばれる病院づくり			
〔1〕信頼性の向上			
	(1) 患者構成の高齢化に対応した体制整備	A	入退院支援の更なる強化に努めてほしい。
	(2) 患者が安心と満足を得られる院内環境と接遇	A	—
	(3) 県民への情報発信	A	—

福井県立病院経営評価委員会委員一覧

(敬称略)

区分	氏名	所属団体・役職等
委員長	金岡 祐次	大垣市民病院 病院長
委員	池端 幸彦	(一社) 福井県医師会長
"	和田 頼知	公営企業等経営アドバイザー
"	大久保清子	福井県立大学 理事
"	畑 秀雄	全国健康保険協会福井支部長
"	水上 登平	福糖会 (福井県立病院糖尿病患者の会) 会長

福井県立病院経営評価委員会開催経過

開催日	議題
平成30年12月3日(月)	・経営改革プランの平成30年度上半期進捗状況評価について
令和元年8月28日(水)	・経営改革プランの平成30年度進捗状況評価について

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価
大 項 目	中 項 目	小 項 目			
1			高水準の急性期医療を担う基幹病院としての役割		
			〔1〕 質の高い医療の提供		
			〔1〕 基幹病院として取り組むべき医療の充実		A
		①	<p>① 血管に関わる総合的な治療を行う脳心臓血管センターの整備</p> <p>〔中央医療センター〕 1. 28年4月に開設した脳心臓血管センター（循環器内科・心臓血管外科・脳神経外科）のさらなる患者増を図る。</p>	<p>1. 循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科の3診療科の外来診療を一元化した「脳心臓血管センター」について、3科を合わせた紹介数、手術料等が、前年度比で増加した。</p> <p>紹介数 1,549人（前年同期比 +3%） 入院稼働額 2,544百万円（" ▲1%） 外来稼働額 321百万円（" +7%） 手術料 1,155百万円（" +1%）</p>	A
		②	<p>② ICUの体制強化等、県下随一の三次救急医療機関として救急医療・集中治療の充実</p> <p>〔中央医療センター〕 1. 集中治療室（ICU）への医師の複数配置と臨床工学技士の24時間常時配置を実施し、患者の急変時や緊急治療に迅速に対応する。</p> <p>〔救命救急センター〕 1. 県下随一の三次救急として、24時間救急患者を円滑に受入れる。 （救急車搬送件数 4,300件/年） （救急からの新入院患者 5,200人/年） 2. 救急救命士育成のため、実習指導を計画的に受け入れる。</p>	<p>1. 臨床工学技士の24時間常時院内勤務体制を整えるため、増員を行った。（令和元年6月より、特定集中治療室管理料2を算定）</p> <p>1. 救急患者は断らないを徹底し、各診療科とも連携して適切な入院治療を行っている。 救急からの入院患者は病院全体の入院患者の約4割を占めている。 （救急車搬送件数 4,655件 前年同期比 ▲2%） （救急からの新入院患者 5,374人 " ▲2%） （参考）29年度は、大雪により救急車搬送が大幅増加</p> <p>2. 消防機関との連携強化、救急救命士の医療技術向上のため、救急救命士の病院実習を受け入れた。 救急救命士就業前研修 15名 " 再研修 30名 気管挿管実習 4名（約3か月間/名）</p>	A
		③	<p>③ 総合周産期母子医療センター機能の着実な推進</p> <p>〔母子医療センター〕 1. 高度・専門的な周産期医療の提供のため、NICU、GCUの効率的な運用を図る。 （超・極低出生体重児の治療 20件/年） （開胸・頭・腹の手術件数 20件/年） 2. 県内周産期医療の充実および信頼性の向上を図るため、症例検討会を定期的に開催する。 （5回/年）</p>	<p>1. 総合周産期母子医療センターとして、他施設と連携をとりながら円滑に児を受け入れている。 （超低出生体重児の治療 10件 前年同期 5件） （極低出生体重児の治療 12件 前年同期 12件） （開胸・頭・腹の手術 14件 前年同期 27件）</p> <p>2. 県内の各母子医療センター、各職種のスタッフが参加する症例検討会を開催した。 （5回/年）</p>	B

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
			<p>④ こころの医療センター急性期部門の強化による早期社会復帰の促進</p> <p>〔こころの医療センター〕</p> <p>1. 30年1月に設置した精神科救急・合併症病棟と既存の精神科救急病棟および精神科一般2病棟（重度難治性、地域包括支援）を有効に活用・連携し、入院患者を確保する。 (新入院患者数 430人/年)</p> <p>2. 患者の早期の社会復帰を推進するため、退院前訪問の実施により早期退院を促進する。 また、退院後の訪問看護も充実させ、患者の社会的自立を促進する。 (平均在院日数 128.0日)</p>	<p>1. 3次救命救急センター併設の有床総合病院精神科の特性を活かし、緊急・重症な精神政策医療への重点化および採算性の向上を図っている。 平成30年1月から、精神科救急・合併病棟を移動させており、新入院患者、入院稼働額は、前年度に比べ大きく増加している。 (新入院患者 447人 前年同期比 +8.8%) (病床利用率 87.4% 前年同期比 +17.0%) (入院稼働額 1,327百万円 前年同期比 +15.4%)</p> <p>2. 退院前訪問および退院後の訪問看護を積極的に実施している。 平均在院日数は短くなり、早期退院を実現できており、患者の早期社会復帰が図られている。 (訪問看護 3,454件) (平均在院日数 111.4日)</p>	S
			<p>⑤ 高水準の急性期入院治療への重点化、回復期以降を担う医療機関との連携強化</p> <p>〔中央医療センター〕</p> <p>1. 外来診療の対象を連携医からの紹介患者、救急からの患者に重点化するとともに、急性期後の患者の回復期以降を担う医療機関への転院を促進する。 (紹介率 78%、逆紹介率 120%)</p> <p>2. 将来の医療需要に合わせ、一般病床を適切な数へ削減する。 (H30以降 50床程度削減)</p> <p>〔地域医療連携推進室〕</p> <p>1. 急性期後を担う医療機関等との連携を促進し、患者が安心して退院や施設入所ができるよう退院支援看護師が支援を行う。 (入退院支援加算算定件数 3,550件/年) (退院時共同指導料2算定件数 135件/年) (介護支援連携指導料算定件数 760件/年)</p> <p>2. 地域の医師、訪問看護師、介護支援専門員および院内スタッフが参加する地域医療・看護・介護連携交流会を開催し、症例検討を通して連携強化を図る。 (年2回)</p> <p>3. 円滑な入退院支援の促進を目的に、福井市地域包括支援センターとの連携強化会議を開催し、連携の課題を明確にし解決策を見出す。 (年2回)</p>	<p>1. 紹介件数や逆紹介件数の実績を参考に、院長・副院長の連携医訪問を実施している。 各診療科長は、紹介症例や逆紹介症例を通して連携医と意見交換を積極的に行い、患者紹介の働きかけを行った。 (紹介率 76.0%、逆紹介率 115.6%)</p> <p>2. 4床室4室を個室化(16床→8床 ▲8床) 令和元年度にさらなる削減(▲50床)を予定している。</p> <p>1. 退院支援看護師7人、退院調整部門の看護師1人と社会福祉士1人、病棟看護師が連携し、対象者の抽出や退院調整を行っている。 障害児や気がかり親子の登録も多く丁寧な支援を心がけている。 (入退院支援加算算定件数 4,995件/年) (退院時共同指導料2算定件数 135件/年) (介護支援連携指導料算定件数 613件/年) 入退院支援加算算定は、退院支援スクリーニング項目や配点、退院支援計画書の様式、算定業務の運用等の見直しを行い、件数実績が目標を大きく超えた。</p> <p>2. 症例検討会を開催し、院外からも多くの方が参加した。 (1回目 7月6日(金)127名:院外52名、院内75名) (2回目 10月19日(金)119名:院外59名、院内60名)</p> <p>3. 福井市地域包括支援センターとの連携強化会議および研修会を開催し、当院の役割や課題、ケアマネジャーの課題や入退院時の連携ポイントについて相互理解を深めた。 (1回目 7月24日(火)) (2回目 12月13日(木))</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
			<p>⑥ 県内において不足している医療分野への人的支援</p> <p>[中央医療センター]</p> <p>1. へき地医療支援病院として、へき地診療所への代診医の派遣等を充実する。</p> <p>2. 地域医療を確保するうえで、一時的に医師の派遣を必要とする医療機関への医師派遣を充実する。</p>	<p>1. へき地診療所からの代診医や診療支援のための派遣要請に対し、医師を派遣した。 (派遣実績 3診療所 15件 診療419人)</p> <p>2. 地域医療連携医がいる医療連携へ代診医を派遣した。 (派遣実績 1医療機関 2件 診療57人)</p> <p>3. 福井県立病院で研修を受けた若手医師たちが、へき地等での勤務後、へき地等で開業（清水診療所、池田診療所、河野診療所等）する等により、県内の無医だった地区が減少している。</p>	A
			<p>⑦ 非常時に備えた医療機能の提供</p> <p>[救命救急センター]</p> <p>1. 災害発生時に現地へ出向き、救命措置や診療支援を行う。 (DMATチームを3チーム編成)</p> <p>2. 緊急時医療対策施設における被ばく患者に対する除染等を行う体制の確認訓練を実施する。(年1回)</p>	<p>1. DMATチームは、中部ブロックDMAT実働訓練（富山県）、近畿府県総合防災訓練（県内）等に参加し、実際の出勤を想定した訓練を行った。 中部ブロックDMAT実働訓練 10月13・14日（土・日） 近畿府県総合防災訓練 11月10日（土） 国民保護共同図上訓練 1月9日（水）</p> <p>2. 原子力総合防災訓練（国主催）に参加し、原子力発電所からの被ばく患者の受け入れ・医療措置、UPZ（半径30km圏内）にある病院からの避難患者受け入れを訓練した。（8月25・26日）</p> <p>また、病院独自に、県防災ヘリ、原子力事業者も参加する被ばく医療訓練を行い、患者受け入れ、除染、初期治療を実施した。（9月8日）</p>	A
			<p>[放射線室]</p> <p>1. 原子力災害拠点病院として、原子力災害時の専門的知識および技能を有する技師を育成する。</p>	<p>1. 上記訓練のほか、放射線医学総合研究所主催の「原子力災害時医療中核人材研修」等の専門的な研修会にも参加し、技術の習得に努めている。 (参加回数6回、延人数20名)</p>	
			<p>[医療安全管理室（感染制御班）]</p> <p>1. 社会的影響が懸念される感染症の流行に備えた研修等を実施する。</p>	<p>1. 県内で新型インフルエンザ患者が発生した想定で、県健康福祉センターと合同による患者搬送訓練および感染症病床での検査、画像撮影等のシミュレーションを実施した。 (3月20日（水）)</p>	
			<p>[全体]</p> <p>1. 事業継続計画（BCP）を作成する。</p>	<p>1. BCPを作成した。 今後も、BCPの実効性を高めるため、年1回以上の頻度で見直す。</p>	

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
			(2) 高度な医療技術の積極的な導入		A
		①	<p>内視鏡・腹腔鏡・胸腔鏡・カテーテル等を用いた高度な手術・治療の実施</p> <p>[がん医療センター]</p> <p>1. 胃がん、大腸がん等に対する腹腔鏡・内視鏡や、肺がんに対する胸腔鏡などを用いた、患者の身体的負荷が小さい鏡視下治療・手術を積極的に採用する。 (実施割合 88%)</p> <p>[中央医療センター]</p> <p>1. 外科手術とカテーテルにおける血管内治療を同時に施行できるハイブリッド手術室を整備する。</p>	<p>1. 主要4部位（胃・大腸・肺・肝）の手術537件のうち、腹腔鏡・胸腔鏡・内視鏡・ラジオ波手術で470件を実施した。 今後も患者の身体的負荷が小さい鏡視下治療・手術を積極的に採用していく。 (実施割合 87.5%)</p> <p>1. ハイブリッド手術室の運用を、30年4月から開始した。 手術件数 158件（30年度）</p>	A
			(3) 手厚い医療の提供		A
		①	<p>看護体制の強化</p> <p>(看護部)</p> <p>1. こころの医療センターは、精神科救急病棟および精神科救急・合併症病棟を有しており、3ヶ月以内の在宅復帰を図り、また、在宅復帰後の生活を支援するため、訪問看護を実施する体制を維持する。</p> <p>2. 認知症患者対応力向上を図るとともに、認知症ケアの体制を構築する。 認知症患者に対する院内デイケアの開設、運用を行う。</p> <p>3. 医療依存度が高い患者や在宅でのセルフケアの習得が必要な患者および家族に対し、各分野の専門看護師・認定看護師が療養支援を行う「看護外来」を充実する。</p> <p>4. 重症度、医療・看護必要度データを効率的かつ正確に測定する。 また、評価のための多職種連携による体制を整備する。</p> <p>5. ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、職場環境の改善を進める。</p> <p>6. 専門看護師・認定看護師を計画的に育成する</p>	<p>1. 精神科訪問看護を積極的に実施している。 退院前訪問 268件（29年度 115件） 退院先への訪問件数 3186件（29年度 1830件） 精神科救急病棟および精神科救急・合併症病棟に入院している患者の入・退院調整を行い、特定入院料算定要件を満たせるようベットコントロールしている。</p> <p>2. 認知症看護の質向上のため、認知症看護認定看護師を1名養成した。 認知症院内デイケアを1回/月実施（10月～）し、各病棟から6～8名・回が参加している。</p> <p>3. 看護外来を拡大して実施している。 4部門→9部門（30年10月） 指導件数 1806件（29年度 1538件）</p> <p>4. 「重症度、医療・看護必要度管理委員会」を設置し、医師、看護師、診療録管理室、薬剤部、リハビリ、事務部門と協働して運営している。 データの質管理等を行い、看護必要度36%を維持している。 （30年10月 看護必要度Ⅱ届出）</p> <p>5. 2交代制勤務を導入し、9部署が実施している。</p> <p>6. 認定看護管理者、がん看護専門看護師、災害看護専門看護師、がん放射線看護認定看護師、認知症看護認定看護師、手術看護認定看護師が資格を取得した。 現在、認定看護師 17分野25名 専門看護師 4名 特定行為研修修了（創傷管理、創部ドレーン、栄養管理および水分管理） 認定看護師研修修了（糖尿病およびがん化学療法）</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価	
大項目	中項目	小項目				細項目
			② 切れ目ないリハビリテーションの推進	[リハビリテーション室] 1. 急性期患者に対し、休日も途切れることなくリハビリテーションを提供する体制を整備し、入院患者の身体的機能回復を支援する。 2. 30年度診療報酬改定で新規に設定された「集中治療室早期離床リハビリテーション加算」に対応し、早期の社会復帰を支援する。	1. 30年4月から理学療法士1名を増員し、5月から心臓リハビリについて365日実施体制を提供している。 (実施件数 108,619 件 147,105 単位、前年同期比 101.8%) 2. 早期離床加算算定数 760件 (ICU延べ入院数2669件 算定率28.5%)	A
			③ 病棟における薬剤指導の強化	[薬剤部] 1. 薬剤師を各病棟に配置し、持参薬の照合や患者個々の症状変化に応じた処方、副作用の有無の確認等、きめ細やかな服薬指導を実施するための体制を整備する。 2. 入院患者の症状変化に密接に関わり、患者の安全な身体機能回復を支援するため、専門知識を持つ認定薬剤師を育成する。	1. 薬剤師を各病棟に配置し、病棟薬剤業務実施加算を算定している。 2. がん専門薬剤師の取得に向けて研修会に参加し、準備を行った。	B
			(4) 医療機器や設備の計画的な導入			A
			① 将来の高度医療の実施に対応できる機器・設備の導入	[中央医療センター] 1. 30年3月に完成した外科手術とカテーテルによる血管内治療を同時に施行できるハイブリッド手術室を利用し、高度な医療を提供する。 2. 各診療科が使用している医療機器の共同利用を促進する。	1. ハイブリッド手術室の運用を、30年4月から開始した。 手術件数(30年度) 158件 【再掲】 2. 機器経費削減ワーキングチームにおいて、集約化に向けた課題や方策を検討した。 電気メスの共同利用を促進し、不要な機器更新を控えている。	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
		〔2〕 全国トップレベルのがん治療の提供			B
		① がん医療センターの機能を生かした集学的治療の推進	<p>1. 胃がん、大腸がん等に対する腹腔鏡・内視鏡や、肺がんに対する胸腔鏡などを用いた、患者の身体的負荷が小さい鏡視下治療・手術を積極的に採用する。【再掲】</p> <p>2. 最新型の放射線治療機器（リニアック）を導入し、患者の身体的負を軽減するため治療時間を短縮する治療を積極的に採り入れ、高精度の放射線治療を行う。</p> <p style="text-align: center;">（治療患者数 280人/年）</p> <p>3. 外来化学療法室において、患者の生活の質に配慮した副作用の少ない抗がん剤治療を実施する。</p>	<p>1. 主要4部位（胃・大腸・肺・肝）の手術537件のうち、腹腔鏡・胸腔鏡・内視鏡・ラジオ波手術で470件を実施した。今後も患者の身体的負荷が小さい鏡視下治療・手術を積極的に採用していく。</p> <p style="text-align: center;">（実施割合 88%） 【再掲】</p> <p>2. 照射回数が多い前立腺の患者が保険適用となった陽子線治療に移ったことと、乳がんの術後照射が減少したため、リニアックの治療件数は減少している。診療報酬が高いIMRTなどの高精度放射線治療を推進していく。</p> <p style="text-align: center;">（治療患者数 257人/年 うち、IMRT等による治療 69人/年）</p> <p>3. 外来化学療法室において、効率的かつ安全な運用に努めて治療を行った。</p> <p style="text-align: center;">（外来化学療法患者数 5,086人/年）</p> <p>高齢者など、患者の希望に応じ、一部を入院で実施した。 （入院による化学療法患者数 1,130人/年）</p>	B
		② チーム力を結集したがん治療	<p style="text-align: center;">〔がん医療センター〕</p> <p>1. 胃、大腸、肺、肝、乳、子宮の各部位ごとに、複数の診療科医師によるチーム医療を実施し、多職種でがん症例の検討を行うがんセンターボードを週3回開催する。</p> <p>2. 緩和ケアセンターを拠点に、専門の看護師等による患者からの苦痛緩和等の相談体制を充実する。</p> <p style="text-align: center;">（相談件数 1,350件/年）</p>	<p>1. 毎週月・水・金に、多様な診療科の医師、看護師、薬剤師、放射線技師等各職種が一堂に会し、最善の治療方法について議論している。</p> <p>2. 緩和ケアセンターのがん看護専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師ら3名の専従看護師を中心に、がん相談支援センターと連携し緩和ケアに関する高次の相談支援を行うなど、積極的に活動している。</p> <p style="text-align: center;">（相談件数 1,359件）</p> <p>緩和ケアチーム専従医師を配置し、緩和ケア外来の充実を図るとともに、緩和ケア診療加算の算定を開始した。緩和ケアチーム介入件数が前年度の2倍以上となるなど積極的に活動している。</p> <p style="text-align: center;">（H30 2,869件 ← H29 1,383件）</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価									
大項目	中項目	小項目												
		③ 陽子線がん治療の利用促進と研究推進	<p>〔陽子線がん治療センター〕</p> <p>1. 他医療機関からの紹介患者を確保するため、県内、石川県、富山県を中心に病院間ネットワークを構築し、普及啓発を行う。 併せて、両県民に対するPR活動も強化する。</p> <p>(陽子線治療患者数 180人/年)</p> <p>2. 他医療機関の多くの診療科の医師に陽子線治療を知ってもらうため、勉強会を開催し、実際の症例等を用いて説明し患者紹介を働きかける。</p> <p>3. 陽子線治療における他施設との共同研究を推進する。</p>	<p>1. 北陸三県（富山、石川、福井）に重点を置いた普及啓発活動を展開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井大学病院に「陽子線外来」を設置（11月～ 月2回） ・市民公開講座（富山、金沢、福井）（参加者 計570人） ・出前講座（北陸地域の生命保険会社等にて開催（22件） ・医療機関等への営業 福井県内、石川県を中心に医療機関等を訪問し、公的医療保険の適応拡大をPR、患者紹介と説明会開催を依頼（394件） ・メディアへの記事掲載の働きかけ（新聞等への記事掲載8件） （陽子線治療患者数 H30 164件 ← H29 118件） <p>2. 他医療機関にて、医局会等の時間を利用した勉強会を開催した。 福井市医師会泌尿器科WG、福井大学病院、市立敦賀病院（福井）、市立三国病院（福井）、石川県医師会、浅ノ川総合病院（石川）、小松市民病院（石川）</p> <p>医療従事者向けポータルサイト「m3.com」にてWEBコンテンツを配信（9回）。またWEB講演会を開催した。</p> <p>3. 治療の高度化のため、福井大学、金沢大学と共同研究を実施。日立製作所との共同研究を検討している。</p>	B									
		④ 内視鏡や腹腔鏡を用いたがん治療対象部位の拡大	<p>〔がん医療センター〕</p> <p>1. 外科以外の診療科においても、患者の身体的負担の少ない鏡視下治療を積極的に実施する。</p>	<p>1. 外科を中心に実施している腹腔鏡等の手術について、消化器内科、婦人科の症例でも取り組んでいる。</p> <p>悪性腫瘍の鏡視下手術</p> <table border="0"> <tr> <td>H30</td> <td>消化器内科103件</td> <td>婦人科8件</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>消化器内科103件</td> <td>泌尿器科1件 婦人科5件</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>消化器内科122件</td> <td>泌尿器科1件 婦人科4件</td> </tr> </table>	H30	消化器内科103件	婦人科8件	H29	消化器内科103件	泌尿器科1件 婦人科5件	H28	消化器内科122件	泌尿器科1件 婦人科4件	A
H30	消化器内科103件	婦人科8件												
H29	消化器内科103件	泌尿器科1件 婦人科5件												
H28	消化器内科122件	泌尿器科1件 婦人科4件												
		[3] 人材の育成・確保												
		(1) スタッフの確保・定着促進と資質向上			A									
		① 優秀な医師の採用と定着	<p>〔経営管理課〕</p> <p>1. 医学生に対する募集広報を推進し、31年度採用に向けた初期研修医を確保する。</p> <p>2. 新専門医制度による専攻医の確保について適切に対応する。</p>	<p>1. 31年度採用初期研修医を10名募集し、10名がマッチング成立した。</p> <p>2. 内科1名、産婦人科1名、救急科5名を採用した。</p>	A									

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
		②	<p>専門資格の取得</p> <p>[看護部]</p> <p>1. 新たに認定看護師を2名養成する。</p> <p>[薬剤部]</p> <p>1. がん専門薬剤師等の資格取得を推進する。</p> <p>[放射線室]</p> <p>1. 放射線治療専門技師、検診乳房撮影認定技師等の資格取得を推進する。</p>	<p>1. 認定看護管理者、がん看護専門看護師、災害看護専門看護師、がん放射線看護認定看護師、認知症看護認定看護師、手術看護認定看護師が資格を取得した。 特定行為研修修了（創傷管理、創部ドレーン、栄養管理および水分管理） 認定看護師研修修了（糖尿病およびがん化学療法） 【再掲】</p> <p>2. 30年度はがん専門薬剤師の取得に向けて研修会に参加し、準備を行っている。 【再掲】</p> <p>1. 新たに1名が放射線治療専門技師の資格を取得したが、1名が資格を返上した。（資格取得者数は変わらず 7名）</p>	A
2 収支を改善し単年度経常収支を黒字化					
[1] 収益の確保					
(1) 新規患者の増加					
		①	<p>地域医療支援病院として連携医からの新規紹介患者の確保</p> <p>[地域医療連携推進室]</p> <p>1. 地域連携医からの患者紹介等の申し出に迅速に対応する。 平成28年8月から開始した土曜日午前中の予約受付を継続して実施する。</p> <p>2. 副院長（地域医療連携室長）をリーダーとした「患者獲得ワーキングチーム」で、紹介患者獲得に向けた方策を検討、実施する。</p> <p>3. 地域連携医を対象に研修会・講演会を開催し、当院が実施している医療技術や治療実績をPRし、紹介患者の獲得につなげる。</p>	<p>1. 平成28年度から、土曜日午前中の予約受付を実施している。地域連携医に認知されるようになり、予約受付が増加してきている。 628件（診察予約512件、検査予約116件） （1回当たり 13.1件 ← H29 12.8件 ← H28 11.8件）</p> <p>2. 患者獲得ワーキングチームを開催した。（3回） 患者を紹介してもらう地域連携医の当院に対する評価・信頼を高めることが重要であるため、以下の取組みを実施した。 ①当院紹介冊子を制作 ・内容充実 特集ページ、各診療科・各部門のPR プロカメラマンによる医師顔写真、診療風景等を掲載 ・配付先の拡大 連携医ではない県内内科医療機関へも配布 ②各診療科医師と連携医の良好な信頼関係を構築 ・連携医訪問実績 128件 ・各医療機関からの紹介関連データ分析を行い訪問先を検討 ③診療情報提供書作成に関する地域医療連携研修会を開催 ・院外講師による診療情報提供書（退院時資料添付加算）作成の徹底および積極的な逆紹介の推奨 ④医療機関マップを作成（医科、歯科） ・積極的な逆紹介先の検討や地理的把握に活用</p> <p>3. 開放型病床カンファレンス、歯科講演会、出前講座、連携医講演会を開催 開催回数 12回 参加者 603名（院外221名、院内382名）</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
			(2) 診療単価の向上		A
		①	<p>DPC（入院費包括払）制度に則った高水準で高収益となる診療への取組み</p> <p>〔診療録管理室〕</p> <p>1. DPCⅡ群昇格をめざし、診療密度（1日当たり包括範囲出来高点数）の向上を図る。</p> <p>2. 入院早期の段階で手厚い治療を実施し、DPC入院期間ⅠとⅡでの退院を促進する。 （入院期間Ⅱ以内の退院率 70%）</p> <p>3. 重症患者への救急医療管理加算の算定や入院期間Ⅱ以内の退院率等、DPC係数上昇のための具体的な手法を職員に啓発、指導する。</p>	<p>1. 30年4月からDPC特定病院群に指定された。機能評価係数Ⅱは、特定病院群の中で、全国16位になっている。</p> <p>診療録と医事データの整合性の確認を行い、欠落したデータがあれば医療情報システムや運用方法の改善を検討するなど、DPCデータの精度向上に努めた。</p> <p>2. 毎月の医局会・連絡会で、診療科別に入院期間Ⅰ＋Ⅱの退院率を示し、期間Ⅱ以内での退院促進を働きかけたところ、目標を達成した。 （入院期間Ⅱ以内の退院率 70.8%）</p> <p>3. DPC係数の機能評価係数Ⅱ合計について目標値を設定し、各係数の算式を医局会等で周知、係数改善のための具体的な取組みを徹底した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急医療係数 重症度チェックテンプレートの確実な入力を徹底し、病院全体で救急医療管理加算の積極的な算定について取り組んでいる。 救急医療入院率 35% 効率性係数 入院期間Ⅱ以内の退院率と効率性係数の相関について医局会等で説明し、入院期間の適正管理を支援する電子カルテの機能の有効活用（「DPC患者一覧」レイアウト変更）を促した。 効率性係数偏差値 52.7 → 56.5 効率性・複雑性・カバー率係数 化学療法の一部について、入院化を促進 	A
		②	<p>体制整備や質の高い医療行為による上位の診療報酬点数の算定</p> <p>〔経営管理課〕</p> <p>1. 診療報酬施設基準に定める人員配置等の要件を備えることで、上位の保険点数の算定を可能とし、収益の増を図る。</p>	<p>1. 30年度診療報酬改定に基づき、業務実施体制の整備や施設基準充足等を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 抗菌薬適正使用支援加算 4月 算定開始 看護職員夜間配置加算（夜間に看護を行う看護師16対1） 精神科救急病棟、精神科救急・合併症病棟 4月 算定開始 早期離床・リハビリテーション加算 4月 算定開始 	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価	
大項目	中項目	小項目				細項目
			③ 病室の個室化	1. 〔経営管理課〕 1. 入院患者の治療環境改善とプライバシーの確保、さらに収益確保のため病室の個室化を推進する。	1 31年1月に、4床室4室を個室化した。（16床→8床 ▲8床）	A
			(3) データ分析に基づく経営改善			A
			① 各種経営分析ツールを用いた収支改善策の検討	1. 〔経営管理課、診療録管理室〕 DPC分析ソフトを活用し、診療科別・疾患別の問題点および改善ポイントを把握、各診療科にフィードバックし収支改善を図る。	1 DPC分析ソフトを活用した分析結果をもとに、各診療科の医師、病棟師長等と病院幹部職員が参加して「診療科別経営状況等検討会」を開催し、率直な意見交換を行った。 (外科、腎臓・膠原病内科、婦人科、脳神経外科、循環器内科)	A
				2. 経営コンサルティング等の専門家の支援を得て、収支改善に向けた課題の洗い出し、改善策の検討を行う。	2. 病院経営の専門家に当院DPCデータの分析を依頼し、定期的に当院の幹部や経営改善ワーキングメンバーとディスカッションしながらデータ分析結果の報告や課題の抽出、改善に向けた助言を得た。 (依頼先) 千葉大学医学部附属病院 副病院長 井上貴裕 【主な取組み】 ・入院期間Ⅱ以内での退院促進 退院率（ⅠとⅡの割合）目標値 70% ・画像診断を必要に応じてオーダー。エコー等の請求漏れをなくす。 ・連携医へ逆紹介する際の診療情報提供書(退院時資料添付あり)作成の徹底 ・特定入院料の算定率向上 ・出来高算定項目の算定率向上	
			(4) 診療報酬請求業務の水準向上			A
			① 医事記録管理や診療報酬請求業務の充実	1. 〔医療サービス課、経営管理課、診療録管理室〕 中央医療センター長をリーダーとした「収益確保ワーキングチーム」で、収益確保に向けた方策を検討、実施する。	1. 医師、看護師、事務局職員で構成するワーキングチームを立ち上げ、収益を確保するための取組みを行った。 【主な取組み】 ・ICU、緩和ケア病棟、救急病棟等、特定入院料の算定アップ ・画像検査、エコー検査回数の適正化 ・化学療法の一部の入院対応など ・診療密度の向上（DPC特定病院群の要件） 31年3月末現在 2,523.25 特定病院群昇格時（H28.10～H29.9） 2,416.76 ・入院期間Ⅱ以内での退院率 H30年度 70.8%	A
				2. 診療報酬請求事務の適正化に向け、職員の資質向上を図る。	2. 医師や医事業務を行う職員（委託事務）等のスキルアップを図るため、研修会の開催や具体的かつきめ細やかな指導を行っている。 また、診療報酬請求に関する研修会を開催した。 1月25日 レセプトの留意点、在宅自己注射指導管理料等について 3月20日 医療制度改革、診療報酬改定について	

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価	
大項目	中項目	小項目				細項目
			(5) 外部評価の実施		A	
		①	経営改善に関して定期的に 病院外部からの意見を得る 評価制度の実施	〔経営管理課〕 1. 経営改革プランの進捗状況について、定期的に 病院外部からの意見を得る評価制度を実施する。	1. 経営評価委員会を開催し、とりまとめた評価書を公表した。 第1回委員会 7月11日 第2回委員会 8月24日 平成29年度実績評価書の公表 10月 第3回委員会 12月3日 平成30年度上半期実績評価書の公表 1月 委員からの意見について、改善に向けた具体的な方策を検討し実施してい くことが重要であり、今後の取組みに活かしていきたい。	A
			(2) 経費の抑制			
			(1) 個別経費の節減		A	
		①	診療材料費の節減	〔経営管理課〕 1. 「材料費削減ワーキングチーム」で、診療材料 費等の削減に向けた方策を検討、実施する。 (品目集約および安価品への切替件数 60件/年)	1. 医師、看護師長（手術室）、薬剤部、事務局等で構成するワーキングチ ムを立ち上げ、各診療科に対し品目の統一や安価品への切替など実施可能 なものの検討を依頼し、提案されたものから順次実施している。 集約・切替件数、削減額とも前年度を上回っている。 (品目集約 12件 安価品への切替 52件 計64件) 削減額 1,390万円 (H30)	A
		②	薬品費の節減	〔経営管理課、薬剤部〕 1. 後発医薬品を積極的に採用し、数量ベースでの 取扱い割合の向上を図る。 (後発医薬品の使用割合 85%)	1. 後発医薬品の使用状況を調査し、使用量の多いものについて後発医薬品の 採用を進めており、取扱い割合は目標を超えている。 (後発医薬品の使用割合 90.9%) 後発医薬品採用による収支改善効果を検証し、注射薬を中心に採用メリッ トが大きい医薬品について切替を検討している。 H27分 76品目 削減額 3,600万円 H28分 123品目 削減額 6,200万円 H29分 49品目 削減額 1,600万円 H30分 29品目 削減額 300万円	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【30年度評価】

改革プラン重点事項			細項目	30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目				
			③ 医療機器の保守点検費用の削減	<p>〔経営管理課〕</p> <p>1. 「機器経費削減ワーキングチーム」で、機器購入費や保守経費の削減に向けた方策を検討、実施する。</p> <p>2. 機器購入にあたり必要性・収益性を厳格に審査、評価するしくみを確立し、医療機器の購入・保守経費を抑制する。</p>	<p>1. 医師、臨床工学技士、看護師、事務局職員で構成するワーキングチームを立ち上げ、医療機器の保守や修繕に係る経費の削減に向け取り組んでいる。</p> <p>・機器の削減、共用化 エコーなど台数が多い機械備品について、使用頻度を調査した。使用頻度が少ない機器については共有化を図り、更新を控える。</p> <p>2. 器械備品委員会に設けた選定委員会（病院幹部で構成）において、プレゼンテーションやヒアリングを実施し、機器の必要性について厳正に審査した。</p>	A
			④ 給与費の適正管理	<p>〔全体〕</p> <p>1. 超過勤務の縮減を図る。</p> <p>（超過勤務時間 医師 △8時間／人・月 （前年度比） 事務 △5時間／人・月 その他 △2時間／人・月）</p>	<p>1. 月100時間を超える職員や2カ月連続80時間を超える職員がいた所属長は、職場環境改善案を提出することとなっている。</p> <p>（超過勤務時間 全体 +0.9時間／人・月 （前年度比） 医師 +3.7時間／人・月 事務 +3.4時間／人・月 その他 △0.4時間／人・月）</p>	B

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価	
大項目	中項目	小項目				細項目
3			県民に選ばれる病院づくり			
			〔1〕信頼性の向上			
			〔1〕患者構成の高齢化に対応した体制整備		A	
			①機動性の高い地域医療連携推進室への体制強化	<p>〔地域医療連携推進室〕</p> <p>1. 地域医療機関からの患者紹介に対し、迅速に対応する。</p>	<p>1. 地域医療機関からの患者紹介に対する予約日時等の回答は、受けてから20分以内に行うことを対外的にも明記している。 約6割は20分以内に回答しており、医師との調整に時間がかかるなど事情がある場合はあらかじめ連絡をし、できるだけ早く回答するよう努めている。（20分以内に回答 65%、30分以内に回答 82%）</p>	A
			〔2〕患者が安心と満足を得られる院内環境と接遇		A	
			①接遇や施設整備の改善	<p>〔全体〕</p> <p>1. 職員の接遇向上や施設整備の改善等を実施し、患者や来院者に対する利便性・快適性を向上する。</p>	<p>1. ・患者満足度調査の実施 定期的に、患者の当院への評価・満足度等を把握している。 実施日 外来 8/1、2（2日間） 入院 8/1～7（7日間） 回収率 外来 48%（719枚） 入院 65%（377枚） 結果 外来の診察までの待ち時間が改善 医療機器等設備、清掃への満足度が上昇</p> <p>・接遇研修の実施 7月17、18日 講師：福岡県済生会福岡総合病院 三原圭子氏 9月20日 講師：仁愛短期大学 非常勤講師 鈴木晴子氏 10月2日 講師：SOMPOリスケアマネジメント(株) 泉泰子氏 12月6、7日 講師：福岡県済生会福岡総合病院 三原圭子氏 2月19日 講師：(株)グローバルヘルスコンサルティングジャパン 塚越篤子氏</p> <p>・委託スタッフへの基本行動（接遇）の指導を徹底 実行状況のチェックを実施</p>	A
			②入院前から在院中・退院後に至るまでの患者サポート体制の充実	<p>〔看護部・地域医療連携推進室〕</p> <p>1. 入院前から退院後まで支援する各スタッフが、入退院支援室で得た患者情報を共有し、患者が安心して治療を受け、安心して退院できるようにサポートする。</p> <p>2. 退院支援は連携室の業務であるが、病棟との連携強化を図るために入退院支援に関する院内の認識の向上を図る。</p> <p>3. 地域医療連携推進室と入退院支援室、なんでも相談が連携を密にし、患者からの医療・生活相談に迅速に対応する。 医療相談件数 中央C 15,400人/年 こころC 18,000人/年</p>	<p>1. 入退院支援室において入院前の生活やサービス利用状況、入院への不安等を把握し、入院中のスケジュールや退院に向けた支援の説明を行っている。得た患者情報は医師や看護師・栄養士・薬剤師・リハビリ・退院支援部門等で共有し、患者・家族が安心して治療を受け、退院できるように努めた。（なお、入院時支援加算は算定していない）</p> <p>2. 外来・病棟・連携室の連携強化を目的に、4月から、看護部入退院支援部会を設置し、毎月1回、部会活動を実施している。 また、部会と地域医療連携推進室が連携し、『円滑な入退院支援にむけて』と題して看護職員研修会を開催した。（8月15日）</p> <p>3. 相談対応の迅速化を図り、社会福祉士、精神保健福祉士等が対応している。</p> <p>医療相談件数 中央C 15,403件 こころC 19,538件</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【30年度評価】

改革プラン重点事項			30年度計画	30年度計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
		③安全管理水準の向上	<p>〔医療安全管理室〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内の安全体制確認を行うラウンド等、多職種で取り組むチーム活動を推進する。 2. インシデント事例の報告や改善策の検討を行うカンファレンスを定期的に開催する。 3. 患者の転倒転落事故防止のため、患者、家族への説明を徹底する。 4. レベル3 b以上の重大事例の減少に努める。 (3b以上のインシデント件数 8件以下/年) 5. 医療事故や院内感染の防止に向け、全職員を対象とする研修を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. リスクマネージャー約70名が、テーマごとに6グループに分かれて事例分析を行っており、その分析結果を現場に還元することを目的として、随時、院内を巡回した。 2. 医療安全カンファレンス（院長以下関係者）を週1回開催し、インシデント事例の検証、改善策の検討を行った。 医療安全管理者による全部署でのカンファレンスも毎月1回実施し、KYT（危険予知トレーニング）・4M（マン・マシン・メディア・マネジメント）分析支援を月20件ほど行った。 3. 患者の自己チェックも踏まえ転倒転落危険度を評価、危険度を患者に説明し、事故防止には患者や家族の協力が必要であることを理解してもらうよう努めた。 危険度評価実施率 100% 患者への危険度説明実施率 90% 4. 発生件数が目標を大きく下回った。 (3 b以上のインシデント件数 3件) 5. 全職員を対象に、「医療安全・感染防止研修」を実施した。 前期日程： 6/ 1、4～8 参加率 99.8% 後期日程： 11/1、2、5～8 参加率 99.7% 	A
		(3) 県民への情報発信			A
		①県民や地域医療機関への情報発信力の強化	<p>〔全体〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当院の取り組みを広く県民に周知するため、院内の情報収集や効果的な広報の実施体制を整える。 2. 広報誌を発行し、病院に関する情報を院外に発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞等への掲載回数 122件 ・陽子線による前立腺がん治療期間短縮 ・腹腔鏡による肝胆膵切除 ・カテーテルアブレーションによる心房細動治療 等 2. 病院広報誌「コンパス」のデザイン・コンセプト等をの充実を図った。 ・ページ構成、デザインレイアウトを刷新 ・特集ページを充実 ・医師の人柄が感じられる『ひとこと』を掲載 ・認定看護師や特定看護師による役立つ情報コーナー 	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（数値目標） 【30年度実績】

項目	29年度実績	30年度 目標値	30年度実績 (目標比)	委員会 評価
経常収支比率	100.3%	100.5%	102.0% (+1.5P)	A
医業収支比率	84.7%	83.6%	87.8% (+4.2P)	S
給与費率	57.8%	55.8%	54.6% (△1.2P)	A
新入院患者数（精神科除く）	13,974人	14,500人	14,193人 (△2.1%)	B
新入院患者数（精神科）	411人	430人	447人 (+4.6%)	A
DPC入院期間Ⅱ以内の退院率	69.2%	70%	70.8% (+1.1P)	A
病床利用率（一般病床）（特殊病棟除く）	78.1%	86%	78.0% (△8.0P)	B
病床利用率（精神科）（保護室除く）	70.4% (29年11月 81床削減)	90%	87.4% (△2.6P)	B
紹介率	75.3%	78%	76.0% (△2.0P)	A
逆紹介率	120.6%	120.0%	115.6% (△4.4P)	B
平均入院単価（一般病棟）	69,607円	71,000円	73,323円 (+3.3%)	A
救急車受入台数	4,757件	4,300件	4,655件 (+8.3%)	A
手術件数	4,772件	5,000件	4,945件 (△1.1%)	A
分娩件数	550件	530件	504件 (△4.9%)	B